

サイバーリスク対応には発想の転換、優先順位付け、 連携が重要

—グリフィブラウン・ペパーダイン大学教授とのオンライン会合を開催—

2021年12月10日

講師：チャーラ・グリフィブラウン ペパーダイン大学

グラツィアディオ・ビジネススクール 教授

経済広報センターは2021年12月10日、ペパーダイン大学グラツィアディオ・ビジネススクールのチャーラ・グリフィブラウン教授を招き、「デジタル技術の最新動向とサイバーリスクへの対応」と題するオンライン会合を開催した。企業の幹部など約80名が参加した。

グリフィブラウン氏はまず、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、AIやIoTなどの技術進化が5年早まったとの見方を示した。そのうえで、クラウド・コンピューティングの普及により、ITシステムを用いた事業構造が大規模化、複雑化し、企業として責任を持つべき範囲や境界がわかりにくくなっていると述べた。他方、サイバー攻撃を行う犯罪集団は、常に集団間で最新の情報を共有しているため、サイバー攻撃の数が年々増大するのみならず、複雑化、高度化、多様化しており、企業単体でサイバーリスクと対峙することは難しくなっていると説明した。

こうした状況で、企業がサイバーリスクに対応するためには、自社システムを堅牢な壁で個別に守るという発想から、システムを止めないことを第一義として次々と起こる問題に最適に対応するという発想へと転換する必要があると指摘。企業は、事業やITシステムのつながりを考慮したうえで、自社の責任やリスクが何かを考えること、リスクに対する機敏性を高めることと同時に、すべてのリスクに対応しようとしなくていいことが大切と述べた。そして、取締役からIT部門の担当者までが一丸となり、サイバーリスクに経営課題として取り組み、対応すべきリスクに優先順位を付け集中的に投資すること、政府や関係会社と連携することが重要になると強調した。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。